

# 社会貢献活動

資生堂グループは、社会・地球と共に持続的に発展することを目指しており、当社のサステナビリティ重点領域に関わる活動と、そして自社の強みをいかして地域の課題を解決する活動で社会に貢献していきます。

## 社会貢献活動の指針

私たち資生堂グループは、社会・地球とともに持続的発展を目指しています。「資生堂グループ倫理行動基準」に沿って、事業を活かして貢献できる社会的な課題解決に努めるとともに、将来にわたって世界中のステークホルダーから支持されるためにそれぞれの地域社会の課題に応える活動に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

## 資生堂グループ倫理行動基準

私たちは、広く社会と双方向のコミュニケーションを充実させ、協働して社会的課題解決に努めます。

- (1) 私たちは、広く社会との対話に努め、化粧の力などで人々を元気づけ健やかにする活動、女性支援活動、文化活動、環境活動などに取り組み、グローバル社会からの期待に応えます。
- (2) 私たちは、事業所が所在する地域社会との交流を深め、地域に貢献する活動を通じて、企業市民としての責任を果たします。

## 社会貢献活動の重点領域

資生堂は「資生堂グループ倫理行動基準」および当社のマテリアリティ（重要課題）の特定プロセスに沿って、社会貢献活動の重点領域を「環境」「社会」「文化」としました。中でも、「社会」領域においては、資生堂の持つ人材・技術を生かした貢献として、「ジェンダー平等を始めとするダイバーシティの推進」や「すべての人々の生活の質(QOL)の向上」に対応した取り組みを社員参画のもと進めています。また「地域社会・災害支援」として、事業所が所在する地域を中心に、社員との協働により各地域社会の課題に応える活動に取り組み、企業市民としての責任を果たします。

## 社会貢献活動の推進体制とガバナンス

資生堂では社会価値創造本部を中心に、ブランド・地域本社などと連携し、社会貢献活動に取り組んでいます。チーフソーシャルバリュークリエイションオフィサーを責任者とし、社会価値創造本部内に社会貢献活動全体の企画推進および実績をとりまとめる専任者を配置しています。また、海外の地域本社にはサステナビリティの推進責任者を配置し、本社と各地域本社が連携して各国・地域の活動を推進・管理しています。

主要な活動については年1回、各ブランドや各国・地域の地域事業所で実施した活動概要などをチーフソーシャルバリュークリエイションオフィサーより取締役会で報告しています。

## 社会貢献活動の取り組み

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、資生堂のサステナビリティ重要課題「環境」「社会」「文化」に関連した社会貢献活動に世界でのべ約3,400名の社員が参画しました。感染症対策を入念に行いながら、オンラインによるヘアメイクアップのアドバイスなど資生堂ならではの化粧の力を通じた活動や、化粧品や金銭の寄付などに取り組みました。詳細は各リンク先をご覧ください。

### 1.環境

資生堂は地球の恵みとして多くの植物原料から製品を生産しているため、環境負荷の軽減とサステナブルな資源の利用に向けた取り組みとして、各国・地域にて環境緑化や海洋保護、環境教育を通じた社員の意識向上に努めています。

### 2.社会

化粧品事業を通して得られた資生堂の美容技術や女性活躍支援のノウハウをいかし、すべての人々にとってより良い社会の実現を目指します。

- ・自分らしく生きがいをもって暮らせる社会を目指し、美の力で人々をエンパワーします。
- ・ジェンダーギャップ解消を目指し、日本の女性活躍支援をリードします。
- ・社会的に恵まれない状況下にある人々への教育、自立支援を通じて、すべての人々が活躍できる社会を目指します。

### 3.文化

資生堂が育んできた質の高いものづくりや100年以上にわたる芸術文化支援の知識と経験をいかし、現代美術や実験的な表現活動を支援しています。

### 4.地域社会・災害支援・各種支援

社会との関わりを通じて社員がみずからを高めていくことが、社員の成長ひいては会社の成長につながります。資生堂は地域社会との交流を深め、それぞれの地域課題の解決に向けて取り組みます。

## 社員による社会貢献活動

資生堂では、社員一人ひとりに社会課題解決の視点を持つことが求められ、私たちのサステナビリティ重要課題である「環境」「社会」「文化」に関わる活動を中心に社会貢献に取り組んでいます。そのため、社員の社会貢献活動をバックアップするさまざまな制度やプログラムも整えられています。また、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、医療従事者、困難に見舞われた方々へ、手指消毒液や化粧品提供などのサポートも行いました。

### 世界で展開するカメラアファンド

「資生堂カメラアファンド（花椿基金）」は資生堂社員および退職した社友の寄付金により、社会課題の解決に取り組むNPOやNGO団体を支援する社会貢献活動です。2005年から日本でスタートし、2020年に世界各地の地域本社すべてに拡大しました。支援する団体は「環境」「社会」「文化」の領域を中心に選定しています。日本国内の社員は毎月の給与1口100円から、退職した社友は一口1,000円から参加しています。米州地域本社、シンガポールのアジアパシフィック地域本社・トラベルリテール地域本社では寄付プラットフォーム「ベネビティ」を通じた活動を行っています。

### 2021年度「資生堂カメラアファンド（花椿基金）」支援団体

領域	支援団体名		支援内容
環境	WWFジャパン		地球環境を守る持続可能なインドネシアの「認証パーム油」生産農家の育成
社会	全国女性シェルターネット		卑劣なDV被害から母子で逃れて生活する子どもへの就学支援
	ジョイセフ		命がけで出産するザンビアのお母さんの命を守る保健施設と出産キットの提供
	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン		栄養不足が深刻なベトナム山岳地帯に暮らす母子の食料と栄養源の確保
	資生堂社会福祉事業財団		施設や里親の元で育ち18歳で巣立つ子供たちの進学支援
	全国色素性乾皮症（XP）連絡会		難病XPの子どものためのUV防御用品や医療介護用品の購入とXP啓発

	日本対がん協会		がん患者と家族への無料相談、がん経験者が前向きに生きるためのサポート
文化	アーツ イニシアティブ トウキョウ		子供たちへ芸術体験を創出しアートの持つ力で環境や障害に負けない心を育む活動

## 世界で取り組む社員による社会貢献活動

社会を見つめ社会とのかかわりを通じてみずからを高めていくことが、社員の成長ひいては会社の成長に繋がると考え、世界中の資生堂グループ社員が各地域・事業所それぞれの地域社会の課題解決に向けて取り組んでいます。

欧州地域本社では、通算4回目となる「Shiseido Camellia day」を実施し、ワークショップや女性シェルターへの化粧品の提供などを行いました。合計39の団体と連携し10カ国から600名以上の社員が参加しました。

米州地域本社では、「THE BEAUTY OF HELPING OTHERS」の名称のもと、年間約20のプログラムを通じてLGBTQ支援団体のサポートをするなど、500名が社会貢献活動に参加しました。

日本では育児中の母親を対象に自治体とオンラインセミナーを共催しました。タイにおいては、熱帯雨林の保全・地球温暖化に対する意識を高めるため植物の植え付けなどを行いました。

日本をはじめ欧州や米州、アジアパシフィックの地域本社では社員が平日に取り組む社会貢献活動を「社会へ出勤する日」と認め、「業務活動」として扱う制度を設けています。

### 「Shiseido Camellia day」の開催（ヨーロッパ10ヵ国 2020.9-10）

オンラインによる乳がん支援の寄付集めや献血活動、病院や医師への製品寄付、手作りマスクを贈る活動などさまざまなプログラムに約600名の社員が参加



困窮している女性への製品寄付（ベルギー）



セーヌ河畔の清掃（フランス）

### 子育て中の母親に対するオンラインセミナー（日本 2020.11.19）

新型コロナウイルス感染症の拡大で仕事や育児の環境が大きく変わるなか、兵庫県の自治体との共催により、生後2カ月から小学3年生の子どもがいる子育て中の女性18名を対象にオンラインでセミナーを開催

### 植物（ウィートグラス）の植え付け（タイ 2020.12.4）

環境課題に対する意識啓発として、World Soil Day（世界土壌デー）に合わせ、ウィートグラスの植え付け活動を社員200名で実施



### 海岸クリーンアップ活動（台湾 2020.11.7）

環境保全に対する意識啓発と海洋保護への取り組みとして、Hsinchu港での海岸クリーンアップ活動を社員101名で実施



### 新型コロナウイルス感染症に関連した活動

資生堂は新型コロナウイルス感染症に対し世界中のステークホルダーの安全を守るため、いち早く2020年2月初旬に「COVID-19緊急対策本部」を設置し、全地域に「対策ガイドライン」を共有しました。さらに地域本社ごとにタスクフォースチームを立ち上げ、社員が安全に働くための支援に迅速に対応してきました。

## 災害支援活動

会社は社会とともにあり、社会の中で生かされています。社会が困難な状況にあるときに、会社は社会の一員としての役割を果たしたいというのが、私たちの思いです。未曾有の被害を被った地域の復興は長い道のみになります。私たちは、人・もの・情報・技術・文化など当社の資源を生かして、被災された方々が自立されることにお役立ちできるよう、支援してまいります。

### 災害義援金

資生堂グループ従業員および退職した社友からの寄付金を、世界中で発生した自然災害に対する災害義援金として被災地にお届けしています。社員と社友一人ひとりの気持ちが大きな力となっています。



2019年、令和元年台風の被災者に向けて「認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）」を通じて義援金を贈呈

### 東日本大震災に対する取り組み

#### 「椿」が結ぶ復興支援活動

資生堂にとって「椿」はもともとゆかりが深く、岩手県の気仙地区、大船渡市・陸前高田市の市の花も「椿」です。震災以降、椿の花のご縁から資生堂がお役に立てることを街の人々と話し合ってきました。その過程で、気仙地区では数10年前まで各家庭で椿の実から油を搾り、食用や髪のお手入れなどに使っていたことから、椿を街の新しい産業にしたいという希望や、大船渡では震災前から椿を観光資源として扱ってきた基盤があることもわかりました。街が大切にしてきた「椿」が新しい産業となり、観光資源としても活用できるよう、資生堂は2011年以降毎年、大船渡市の人々と共に椿の植樹活動を行っています。市の協力のもと、2020年までに約550本の苗木と約260本の成木、合計約810本の椿を植樹しています。



#### 復興支援マルシェの社内開催

資生堂がサポートしている三陸地区の地産品を集めて社内で販売する「復興支援マルシェ」を2013年度より毎年、資生堂汐留本社オフィスにて開催しています。

## <マルシェの目的>

現地	<ul style="list-style-type: none"><li>● 気仙地区の認知向上</li><li>● 新たな販路の開拓</li></ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"><li>● 復興支援活動を知ってもらい、共感してもらう機会</li><li>● 復興支援で何かお役に立ちたい！社員の気持ちを叶える機会</li></ul>



2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年実施してきた対面販売の「復興支援マルシェ」を見直し、資生堂汐留本社以外の全国の社員も参加できるようにオンラインでの「バーチャルマルシェ」を初めて実施しました。オンラインならではの被災地のさまざまな地産品を取り揃え、多くの社員が賛同し参加しました。新しい支援の形として水産業の方々も加わり、社員もそのご家族もみんなが笑顔になったバーチャルマルシェとなりました。



## これまでの主な取り組み

### 1. 産業化に向けた取り組み

#### ● 椿で新たなまちづくり。今年も「椿の植樹会」 2017年5月25日、26日開催

2012年から6年目を迎える2017年は、例年の苗木の植樹と、新しいまちのシンボルツリーとしての植樹を行い、活気づく大船渡のまちづくりを応援しました。資生堂からは社員15名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆様とともに植樹を行いました。

#### (1) 椿の苗木の植樹会

2017年5月25日（木）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、大船渡市福祉の里大洋会敷地内において「椿の植樹会」を実施し、32本の苗木を植樹しました。「資生堂リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられました。



記念植樹（右から2人目は戸田公明 大船渡市長）



苗木を植樹する市の職員と 資生堂社員



植樹会の参加者

## (2) 椿の成木の記念植樹

2017年5月26日（金）、商業施設「キャッセン モール&パティオ」内に、新しいまちのシンボルツリーとして9本の成木を植樹し、まちづくり会社キャッセン大船渡(株)との共同により記念セレモニーを行いました。



記念プレートの除幕式



幹巻きをする社員



記念セレモニーのようす

## ●復興への想いを込めて、椿の植樹会を開催 2016年6月11日開催

2016年6月11日（土）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで「椿の植樹会」を開催しました。資生堂からは20名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆さまと共に植樹を行いました。

### (1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、椿の成木20本を植樹しました。昨年に続き、今年も日本ツバキ協会の方に樹齢30年程の成木を寄贈いただきました。

### (2) 椿の苗木の植樹会

大きく、たくましく育ててほしいという想いを込めて、大船渡市長 戸田公明様、当社代表取締役執行役員副社長 岩井恒彦、大洋会理事長 木川田 典彌様と日本ツバキ協会 仲村清彦様による記念植樹を行いました。

今回の苗木の植樹には、「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社を通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられました。



戸田公明 大船渡市長（右）と副社長 岩井恒彦（左）による記念植樹



急な斜面に苗木を植樹



植樹に参加した資生堂社員

## ●産業化に向けた椿の植樹会を開催 2015年6月12日開催

2015年6月12日（金）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで2通りの「椿の植樹会」を開催しました。

資生堂から16名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会、RCF復興支援チームの皆さまと共に植樹を行いました。

### (1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、樹齢30年程度の椿の成木30本を植樹しました。植樹した成木は、この活動に賛同いただいた、日本ツバキ協会会員により寄贈されたものです。

### (2) 椿の苗木の植樹会

椿の苗木40本を植樹しました。

この苗木の植樹には、2014年当社が発売した「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と当社の関連会社である資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。



苗木に鹿除けを設置している様子



成木の植樹の様子



植樹に参加した資生堂社員

## 2. 気仙地区の「椿」の認知向上に向けた取り組み

### ●大船渡市の「三面椿」をモチーフにしたおやすみ前のフレグランスを発売 2014年10月1日発売

香りは気持ちを和らげたり、リラックス感をもたらします。被災された方に、よい香りで心地よい眠りをお届けしたい・・・そのような思いから、当社のアロマロジー研究を活かした商品開発に取り組みました。大船渡市末崎町「中森 熊野神社」にある樹齢1400年の日本最古のヤブツバキ「三面椿」の香り成分を配合し、性別・年代を問わず、安らぎを感じていただける新しい香りを開発しました。大船渡の方々にもご協力いただき、就寝前にボディーだけでなく、空間や寝具にも使用できるフレグランスウォーター「資生堂 リラクシングナイトミスト 椿の夢」を開発しました。

当商品は2014年10月1日（水）に資生堂 Webサイト「ワタシプラス」にて限定発売し（2017年1月に再販売）、2016年3月9日（水）に（株）三越伊勢丹の4店舗※にて数量限定で発売しました。売上げの一部は、「椿の里 大船渡」の街づくりに活かされました。



資生堂 リラクシングナイトミスト 100ml

## ●椿が結ぶ復興支援 資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」を発売 2014年11月10日発売

資生堂パーラーは、椿を軸にした街の復興をお手伝いする資生堂の復興支援活動に参画し、気仙地区の椿の実を原料とした椿油“気仙椿”を使ったドレッシングを11月10日に数量限定で発売しました※。

この椿油“気仙椿”は、原料となる椿の実からとれる種を焙煎し、搾油機を使い、人の手で丁寧に搾り作られています。焙煎した種を使うからこそ、香りが豊かで黄金色のきれいな椿油になるのが特長です。

※「気仙椿ドレッシング」は、資生堂パーラー 銀座本店ショップ、AEONグループ各社店舗のお歳暮カタログ、そして、11月17日からは特別限定として地元の「らら・いわて」で販売。

単品での取り扱いは銀座本店ショップ、「らら・いわて」のみ各1,080円（税込）



気仙椿ドレッシング  
3本セット 3,240円（税込）  
オニオン <200ml>  
2本・粒マスタード <200ml> 1本

## ●「椿の夢 フェスティバル」の開催 2014年10月4日開催

10月4日（土）、岩手県大船渡市のリアスホールにて、「椿を軸とした街づくり」を支援する活動の一環として、当社が主催する『椿の夢 フェスティバル』を開催しました。

このフェスティバルは、産業資源・観光資源としての「椿」の可能性を、地元の若い世代を中心に体感していただくことを目的に行いました。

イベントは『五感で椿を体感する』をテーマに構成し、香りの効用や発売直後の「資生堂 リラクシングナイトミスト」の効果を解説する「香りセミナー」、椿のデザインをモチーフとした当社の商品・ポスターなどを展示した「ミニギャラリー」、椿油を使用したお料理やお菓子を紹介する「椿の食体験」などを行いました。

「椿の食体験」には、大船渡東高等学校の生徒が参加し、椿油を使った手作りのお菓子を紹介しました。



「香りセミナー」の様子



「気仙椿ドレッシング」を使った料理 ス  
ビエディーニのおふるまい



大船渡東高等学校の生徒さんによる、椿油  
を使った料理・菓子のおふるまい



大船渡東高等学校の生徒さんによる、椿油  
を使った料理・菓子のおふるまい

また、復興を担う地元の若者たちの当フェスティバルへの興味喚起を目的に、高校生を対象とした「ヘア&スキンケアセミナー」を男女別に開催し、ヘアアレンジの方法やきれいな素肌作りのポイントをご紹介しました。イベントの終盤には、事前公募により選出した地元の若者がモデルとなり、当社のヘア&メイクアップアーティストによる「ヘア&メイクアップショー」を開催。渋谷109で若者に人気のブランド「CECIL McBEE」「SLY」にコスチュームで協力をしていただき、それぞれの「なりたい私」の実現を行いました。



高校生を対象に男女別に開催した「ヘア&スキンケアセミナー」



高校生を対象に男女別に開催した「ヘア&スキンケアセミナー」



「ヘア&メイクアップショー」の様子

### ●「椿の恵まつり」の開催 2013年11月23日開催

震災後商品化された食用の椿油の認知を上げ、椿の産業化に向けた後押しとなるよう、椿の「食文化」に着目、椿の食体験を通じて、椿の可能性を地元の皆さまとともに体感する機会をつくりたいと考え、「椿の恵まつり」を企画しました。

このイベントでは、椿油を使った新しいお食事やお菓子のメニューを地元のレストランや和洋菓子店につくっていただき、メニューコンテストを行いました。資生堂からは資生堂パーラー銀座本店の調理長が参加し、資生堂パーラーの看板メニューである「ミートクロケット」を椿油で揚げたものを特別メニューとして提供しました。

そして地元で昔から椿油を使ってつくられていた「けんちん汁」を地元の女性につくっていただき会場を提供し、椿油を知らない子どもたちへの伝承をあわせて行いました。



メニューコンテスト



椿の搾油体験



食体験会場



食体験会場受付



大船渡保育園 園児による郷土芸能（鹿踊り）

また、別会場（大船渡の椿の観光地：基石地区）では、産業化を行う上で重要な椿の実の収穫を体験するイベントも行いました。大船渡の観光地である基石地区の皆さまと一緒に、54kgの実を収穫しました。収穫した実は、産業化に向けて実の収穫が課題となっている陸前高田の製油所、社会福祉法人 大洋会 青松館に寄贈しました。



実の収穫体験



収穫した椿の実

また、地元の皆さまからご要望いただいたお化粧品教室も開催させていただきました。お花だけではなく「椿」を地元の皆さまとともに大いに感じた一日となりました。



美容セミナーの様子



椿の恵まつりに参加したスタッフ

### 3. 次世代とともに椿を育てる取り組み

#### ●大船渡市立 日頃市中学校の活動

岩手県大船渡市立日頃市（ひころいち）中学校では、市の花「椿」の理解を深めるべく「椿の学習プログラム」を全校で実施しています。資生堂では日頃市中学校の要請を受け、未来の街づくりの主役となる生徒に「椿の可能性」を体感してもらうため協力しています。

#### ●資生堂パーラーとの調理実習 2017年8月28日開催

8月28日(月)、生徒たちは資生堂パーラー指導の特製オムライスづくりや大船渡市の椿油で揚げたクロケットの食べ比べに挑戦しました。

まず、パーラーの総調理長が実演しながらオムライスの作り方を指導。チキンライスを卵で優しく包んで作るポイントを生徒に伝授しました。生徒たちはおいしそうなオムライスが出来上がる様子を見つめていました。

生徒による実習では、最初は緊張気味でぎこちない手つきでしたが次第に笑顔が多くなり、チキンライスを卵で包む難しい作業も無事成功、見事なオムライスが完成しました。

実食では、自分たちでも作れるんだとの自信と共にオムライスのやさしい味に笑顔があふれました。また、椿油とサラダ油でそれぞれ揚げたクロケットの食べ比べも行われ、生徒たちは地元の椿油で揚げたクロケットの味や香り

を楽しみました。



パーラー総調理長の見事な手さばきを真剣にみつめる生徒たち



生徒自身による調理



自分たちで作ったオムライスを楽しく実食

## ●大船渡市立 赤崎中学校の活動

岩手県大船渡市立赤崎中学校との出会いは2012年9月11日。

津波で被災した赤崎中学校の仮設校舎前に、資生堂の社員が赤崎中学校の全校生徒と一緒に3年生の生徒数の椿の苗木の植樹を行いました。

苗木の横には「椿の里 大船渡」「ふるさとの復興」をテーマに詠んだ俳句のプレートを立てました。この活動がきっかけとなり、赤崎中学校の生徒さんと植樹した「椿」を共に育てる活動を行なってきました。

植樹した椿がやがて大船渡の新しい産業の芽となる可能性があることをお伝えしながら、生徒さんの間で代々受け継ぎ、大切に育ててきました。

## ●俳句集 2012年度・2013年度・2014年度・2015年度・2016年度

### 俳句紹介

赤崎中学校の3年生の生徒さんが詠んでくれた俳句を紹介します。

#### 2012年度

流された 浜小屋の跡 ヤブツバキ  
赤と白 咲いてまもない その命

#### 2013年度

希望のせ 未来の椿 咲き誇る  
赤椿 ぱっと咲いて ひらり散る

#### 2014年度

紅く咲く 愛情こもった 椿の木  
椿咲く 我が故郷に 夢をのせ

#### 2015年度

海眺め 大船渡の花 椿咲く  
赤椿 見守るうちに 花咲かす

## 2016年度

北椿 郷里の地にて 咲きほこる  
青い海 赤いつばきと 澄んだ空

### ●椿を育てる活動 (WEB会議・椿日記)

#### WEB会議の開催

2013年6月より、整備安全委員の生徒さんとWEB会議を始めました。この「椿ミーティング」では、生徒さんが椿のケアをしている中で気づいたことや、疑問に思ったことを持ち寄り情報共有しています。

椿の育成に必要なことを一緒に考え、専門家からのアドバイスをいただきながら、育成のプログラムを作成しました。

#### 赤崎中学校「椿日記」

2013年度より赤崎中学校では、椿を育てる係として「整備安全委員」の生徒さんが担当することに決まりました。

そして顧問の高橋隆先生から椿のレポートが届くようになりました

### ●搾油体験会 2015年11月17日開催

「椿を育て」⇒「実を収穫し」⇒「実から油を搾る」

産業化に向けて重要なこの一連の活動を生徒さんと共に体験することを通じて、より一層「椿」に関心を深めていただき、「椿」で産業化を目指す大船渡市の後押しとなることを目的に椿の実から油を搾る体験会を開催しました。

当日は、30名ほどの生徒が参加し、大船渡の伝統的な搾油機による搾油を見学した後、実際に家庭用の搾油機で搾ってみる体験を行いました。搾油後には、椿油を活用した事例を知ってもらうために資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」の試食会も行いました。

参加した中学生たちは、「椿の実にさわって搾ったりするのが初めてだったので、とてもおもしろかったです」

「実際に搾ってみると、思ったより力があるし、ほんの少しの油しかでてこないとわかりました」「椿オイルが、いろいろなものに使われているというのを、初めて知りました」と楽しそうに語ってくれました。



家庭用の搾油機による搾油体験



「気仙椿ドレッシング」の試食会の様子



参加した生徒さんと記念撮影

### <赤崎中学校の先生からのお手紙>

この度は、本校において椿の搾油体験会を実施していただきありがとうございました。

資生堂とは「椿」の縁で交流してはや4年の月日が流れ、震災の記憶も記録も薄らいでいく昨今において、震災後に植えた椿がすくすく育つように、WEB会議や俳句集の贈呈式など以前と変わらず、いやそれ以上に温かく大船渡・赤崎中を見守っていただいた事を感謝しております。

今回の搾油体験に参加した生徒は、本当に楽しそうに活動しました。

そして、大船渡の誇りであった「椿」を再発見する機会ともなりました。

今私たちはいつも支援をされる側にいますが、この子ども達がいつか支援する側、大きくいうと世界貢献する側になってくれることを期待しております。

### 非常時の美容について

災害非常時におけるお手入れの方法や、化粧品の効果的な使用方法について、幅広い情報を発信しています。

## 新型コロナウイルス感染症に関連した資生堂の活動



新型コロナウイルス感染症への対応は、人類が協力して取り組むべき課題です。

毎日の暮らしの中での感染対策、医療に従事なさっている方々へのサポート。

困難に見舞われた世界に対し、私たちができることはなにか。

資生堂では、グループ各社それぞれに思いをめぐらせ、知見、技術、設備を生かした対策を検討し、さまざまな活動を続けています。

### 各国・地域での活動

#### 2021年

##### 日本

##### ■「資生堂 Hand in Hand Project」スタート



手指消毒やハンドケアについて多くの方に伝え、取引先企業の方々やお客さまと共に感染予防に取り組むことで医療従事者の力になることを目指しています。

本プロジェクトの期間中、当社が販売するハンドソープ・消毒液・ハンドクリームの利益全額を医療現場のサポートのために寄付します。

本プロジェクトは、2021年6月30日で終了しました。

2021年7月26日に総額503,771,457円を公益社団法人日本看護協会に寄付しました。

## アジア・パシフィック

### ■ SHISEIDOアルティミューンを寄付



資生堂アジアパシフィック地域本社、資生堂トラベルリテール、資生堂シンガポールは「SG Cares Giving Week」に賛同し、13の地域医療施設、4,500人以上の医療関係者にSHISEIDOアルティミューンを寄付しました。

### ■ 売り上げの一部を寄付



CAREフィリピンに、売り上げの一部を寄付しました。

## 欧州

### ■ 一時的嗅覚障害から回復するための嗅覚リハビリテーションモジュールを開発



資生堂EMEA は、一時的な嗅覚障害から回復するための新しい嗅覚リハビリテーションモジュールを開発し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた従業員を支援しました。

2020年

日本

■ 国内4工場での手指消毒液（指定医薬部外品）の生産



独自に手荒れに配慮した手指消毒液（指定医薬部外品）を新たに開発し、4月より国内4工場生産を開始。毎月合計20万本（約10万リットル）の消毒液を、医療機関などを中心に提供しています。

※ 厚生労働省から承認を受けた手指消毒液の承認情報（処方）は、他の企業にも広く開示しています。

■ 日本医師会へ手指消毒液を寄付



国内の工場生産した手指消毒液（指定医薬部外品）を、日本医師会へ20万本寄付しました。消毒液は日本医師会を通じ、各医療現場へ届けていただきます。

■ 医療従事者へスキンケア化粧品を無償で提供



医療従事者の方々のストレス緩和になることを願い、敬意と感謝の意を込めて、日本医師会を通じてスキンケア化粧品を無償で提供しました。

■ グローバルプレステージブランド「SHISEIDO」、国際連合のコンテンツ作成協力に参画



新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、接触することなく、人から人へやさしさをつなぎ、共有することのできるデジタルコンテンツを制作し配信しています。

■ 「いまだから大切にしたい、毎日のこと。」公開



自分をいたわり、今日とこれからをすこやかに過ごすための美容や健康、暮らしにまつわる情報をWEBサイトで提供しています。

## アジア・パシフィック

### ■ 爱心接力Relay of Loveプロジェクト



新型コロナウイルス感染症でお困りの方への寄付や、医療関係者への支援を実施。今後は化粧品のお客様を元気づけるため、中国7都市でチャリティイベントを実施していきます。

### ■ インドネシアでマスク、商品を寄付



インドネシアでマスク90,000枚をNPOへ寄付、また「専科パーフェクトアクアリッチマスク」3,000個を医療機関へ寄付しました。

### ■ 韓国で1億ウォンを寄付

韓国で1億ウォンを、感染者支援基金へ寄付しました。

### ■ シンガポールでスキンケア商品を医療機関へ寄付



シンガポールで200セットのスキンケア商品を医療機関へ寄付しました。

### ■ 台湾でスキンケアセットを医療機関へ寄付



台湾大学病院の最前線で働く医療従事者に、スキンケア・ヘアケア商品を寄付しました。

■ タイでフェイスシールドを寄



タイで3,000セットのフェイスシールドを医療機関へ寄付しました。

米州

■ アメリカの工場で消毒液を製造



医療機関での消毒液不足を支援するため、アメリカ・ニュージャージーにあるイーストウィンザー工場  
で消毒液を製造し、75以上の病院、NPO等の医療機関へ12万本以上を寄付しました。

■ 「Drunk Elephant」が病院へ商品を寄付



「Drunk Elephant」は、新型コロナウイルス感染症患者に対応するアメリカの50の医療機関の医療従事者4300人以上に、スキンケア商品をセットにしたケア・パッケージを寄付しました。

■ 「NARS」が病院へ商品を寄付



「NARS」はDonate Beautyとの協働により、アメリカの44の病院の最前線でコロナウイルスと闘う6000人の医療従事者に、マスクなどの防具で荒れた肌を癒してもらえるよう、スキンケアやリップバームを含むケアパッケージを寄付しました。

## 欧州

### ■ フランスの工場で消毒液35万本以上製造



病院および高齢者施設における消毒液不足を解消するために、フランスのコスメティック・バレーにある2工場で消毒液を37万5,000本以上製造しました。

### ■ 100万ユーロを赤十字に寄付

100万ユーロを、分割してフランス、イタリア、スペイン、ドイツ、イギリスの赤十字社に寄付しました。

**SHISEIDO**

## 子どものための取り組み

資生堂では子どもたちがさまざまな体験を積み、正しい知識を学ぶことができる活動を実施しています。

化粧品を使用する時期の低年齢化に伴い、自己流の使い方によって肌あれなどを起こす子どもが増えています。資生堂では、子どもたちが、自分自身で健やかな肌を守れるようになるために、紫外線対策や洗顔方法などの美容生活情報をわかりやすく伝えています。



資生堂子どもセミナー

### 小学生対象 出前授業

#### ●資生堂子どもセミナー

資生堂子どもセミナーは、小学校で行っている無償の出前授業です。肌に変化する思春期直前の小学校4・5・6年生の男女児童に、「肌」や「清潔」についての情報や、正しい肌のお手入れ法を実習を交えた授業で行っています。

「肌を大切にする」「肌を清潔にする」情報や、正しいお手入れ法を知ることによって、にきびや肌あれになったときに子どもが悩まず、自信をもって自分で対処できるようになることを目的にしています。資生堂子どもセミナーは2009年に始まり、これまで約8,800名が参加しました。



【2つの授業】

### ウェブサイト

「キッズのためのキレイクラブ」での美容生活情報を発信しています。



## ●資生堂マイクレヨン プロジェクト

「資生堂マイクレヨン プロジェクト」では、「自分らしさ」や「個性」について学ぶことができる出前授業を行なっています。

「肌の色」をテーマに、特別に作られたさまざまな色の肌色クレヨンの中から、自分の肌の色のクレヨンを見つけます。そのクレヨンを使って自分の顔を描き、自分だけの特別な肌色があることに気づかせます。肌の色の違いから、人それぞれの考え方や価値観の違いにも議論を発生させ、その違いを認め合うことが大切であることを伝えていきます。



## 教諭対象 養護教諭研究会

小中学校の養護教諭を対象にした養護教諭研究会において「～健やかな毎日のために～日焼け予防と正しい洗顔」をテーマに講演を行っています。

養護教諭研究会は、市町村など地域ごとのブロック単位で実施する養護教諭の勉強会です。本講演では児童や生徒が健やかな肌を守るための情報を習得することを目的に「日焼け予防法」と「正しい洗顔法」を中心にした実習も取り入れた活動を行っています。



## 保健授業をサポートする教材

保健授業をサポートする映像教材（DVD）・児童配付用リーフレットを無償で提供しています。

「資生堂子どもセミナー」「無償教材」のお申し込みは、「キッズのためのキレイクラブ」内専用申し込みフォームからお願いいたします。

お問い合わせは、メールにてお願いいたします。